

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	熱帯JAZZ楽団 米子公演		評価レベル	B (良好な水準だが一部問題あり)
目的・内容	<p>トッププレイヤーの上質な演奏ができる場の提供を行う。また、音楽、特に吹奏楽やジャズビッグバンドの活動者が多い西部地区で開催をすることで、より若年層と男性を中心とした鑑賞者・活動者の拡大を目指す。</p> <p>[内容] カルロス菅野をリーダーとした日本のトップ・ジャズ・プレイヤー達によるラテン・ビッグバンドの公演。ラテンの曲だけではなく、映画音楽をラテン調にアレンジするなど親しみやすく質の高い公演を行う。</p> <p>[プレ事業] ～Honey B Horns～ ジャズライブ 9/1 米子市文化ホールイベントホール 出演:Honey B Horns 来場者:55名</p>			
開催日時	平成25年9月21日(土) 開演18:00			
会場	米子コンベンションセンター 多目的ホール			
入場料 (友の会・団体)	S席 5,500円 (5,000円)	A席 4,500円 (4,000円)	大学生 2,000円	高校生以下 1,000円
集客状況	入場者数 566名	設定席数 1720席	集客率	33%
事業費状況	予算額	収入 4,875,000円	支出 6,514,000円	収支比率 75%
	決算額	収入 2,547,500円	支出 6,037,407円	収支比率 42%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 190名	<p>回収率34%、満足度87%、新規顧客獲得率36%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても素晴らしい演奏でした。なんであんなに笑顔で自由に楽しく演奏できるかすごく不思議。 ・普段ラテンやビッグバンドの生の演奏をきける機会が少ないのでとても良かった！！♪ ・このパワー、このパッション これこそラテンジャズの神髄だ。久しぶりに感動し、若い日(ラテンに心酔した)がよみがえった ・初めてのジャズコンサートに来て、もっと難しいかんじかなあと思っていたけど、すごく楽しめました。 			
1次評価 (内部)	<p>[成果] ・満足度が87%と高く、アンケートからも公演の「演奏技術の高さ」や「会場の盛り上がり」に満足される方が多いことが伺える。これらのことから県内で鑑賞機会の少ないジャズビッグバンドによる質の高い公演の提供が出来たといえる。 ・新規鑑賞者(過去3年以内にジャズの公演を観たことがない鑑賞者)が全体の36%を占めていた。それ以外の2回以上鑑賞機会のある方でも「ラテンジャズ」の公演は初めて鑑賞される方も多く、公演目的の一つである新規鑑賞者の拡大を果たすことが出来たといえる。 ・プレ事業の来場者のうち、同日開催された「立川志の輔独演会」からの来場者の半数以上となり、連携を活かし公演の周知を図ることができた。</p> <p>[課題等] ・入場者数が566名(目標設定人数1,050名)と目標を大きく下回った。H17(902名)、H18(804名)という同楽団の倉吉公演の実績と比して、人口キャバが多くビッグバンドジャズや吹奏楽の盛んな西部地区でのこの結果に対する検証が必要。 ・過去の2公演(ともに倉吉未来中心で開催)の来場者にDMでの案内を行ったが、あまり実際の来場には繋がらなかった。前回の開催から年数が経っていたため「リピーター割引」の設置などより購入に繋がる工夫が必要であった。 ・プレ事業の実施により公演の周知は図れたが本公演へも来場していただける人数は少なかつた。プレ事業の実施方法にも工夫が必要である。 ・今回、県内で実施された他のジャズ公演(妖怪ジャズ等)との連携を図った。その結果としての成果はあったが、予想よりも少ないものであった。販売枚数の下回った際などには早めに対策を取る必要がある。</p>			
2次評価 (財団評議員)	<p>[量的成果] ・目標入場率61%の設定は妥当と考えます。入場目標達成率33%は、ちょっと低すぎると思います。収支バランスをとるためには、目標入場者数を多く見積もらざるを得ません。このことは、県民に素晴らしい公演を提供する使命を果たすためには仕方のないことと理解しています。 ・もともと興味ある人が入場者の大勢を占めているため、高い満足度を示すアンケート結果になるのは当然です。その他の項目に書かれていることに注目してください。一人ずつ一人ずつ、地道に入場者(顧客)を増やすことを考えてはどうでしょうか。 ・今回は、曜日の関係から見ると夜より午後(6時頃終演)がよかったのかもしれない。</p> <p>[質的成果] ・中高年の観客が印象より多いと思った。それらの方々各自自分なりの盛り上がり方で楽しんでおられたのが印象的であった。ただ、会場が広すぎて熱気が充満するにはいけなかった。(会場選定の課題) ・中高生の入場料を低くするより、思い切って対象を限定して「招待」としたほうがよいのではないか。また、入場者を増やすことだけを考えると、ラテン音楽が流行した時代の世代に対してもう少し強い広報をかけたほうがよかったと思います。</p> <p>[課題等] ・音楽による双方向の表現が見られ、音楽(熱帯JAZZ)の吸引力を感じ、自由であることの大切さを感じた。評価では、数字(数量)に現れないものをどう見るかである。 ・ジャズの場合は特に嗜好性が強いので、アルコールが呑める、飲食ができる、など寛いだスタイルとするなど、「場づくりの演出」が必要だと思います。「誰でも」ではなく、「こんな方々へ」という絞り込みが重要に思う。また、今回の配布物のデザインは、はたしてジャズ公演という内容とマッチしていただろうか? などについても考える必要があるかもしれません。今後は、「エンターテインメント性」と、「ターゲットの絞り込み」を考えて企画し、さらに広報についても、フェイスブックなどのSNSの活用、特にフェイスブック広告などの活用をして、鳥取県内のマニア層に広めていく必要があるのではないのでしょうか。</p>			
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「ジャズ活動者」との連携がとることが上手く出来なかつたので、どうすれば連携を取りチケット販売に繋げられるかを検討する必要がある。 ・「ジャズファン」以外の方への広報・取りまとめを行う際には、「ぜひ聴いてほしいと思うポイントの伝え方」「興味を持っていただけるための関心付け」の方法を工夫する。 ・中高年の方がメイン層と考えられる公演は、土日開催の場合は可能な限り午後の早い時間等に開催した方がよいと考えられる(本公演において、公演時間が遅いため遠方からの来場を断念したとの声を多くいただいたため)。 ・西部地域におけるジャズに対するニーズの把握、および比較的活動の盛んな吹奏楽(学生含む)のビッグバンドジャズに対する意識の調査・研究が必要と感じる。 ・「プレイヤー＝鑑賞者」は、必ずしも一致しないと言われることが多いが、実践者が多いことからの鑑賞型事業の誘致の危険性をまさに確認した実施結果であった。今後の事業計画に生かしていかなければいけない。 ・地域的な傾向として、「非常に著名なアーティスト」や「無料、またはリーズナブルチケット料金」への反応は高いと感じる。米子市においては「商業の町」と称され、慎重な事業選定が求められる。 			